

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林整備費

事業名 森林病虫害等駆除事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林経営課 整備係 電話番号：058-272-8490

E-mail：c11515@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,492 千円 (前年度予算額：1,839 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,839	1,209	0	0	0	0	0	0	630
要求額	1,492	978	0	0	0	0	0	0	514
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

「松くい虫被害」は、平成14年度以降減少傾向にあり、平成29年度は363m³と、平成28年度の693m³の約52%と減少傾向にあるものの増減を繰り返している。また、「カシノナガキクイムシ被害」は、平成29年度は43m³と、平成28年度の58m³の約74%に減少し、平成22年度の25,919m³をピークに減少傾向にあるものの増減を繰り返している。

近年、単木的な被害が多く、被害量ほど被害エリアは減少しておらず、予断を許さない状況である。

(2) 事業内容

松くい虫及びカシノナガキクイムシ被害から、松林やナラ類（ミズナラ、コナラ等）の枯損被害を抑制するため、市町村が実施する各種防除対策を支援する。

[予防]

樹幹注入：殺菌剤等を幹に注入し、菌の繁殖を阻止する

[駆除]

伐倒駆除：被害木を伐倒し、薬剤処理をして幼虫を殺虫する

立木型：立木の幹に穴を開け、殺虫剤を注入し駆除する

伐倒駆除型：立木型で処理した後に伐倒を行う

伐倒くん蒸：伐倒木に殺虫剤を散布し、シート被覆を行いくん蒸する

(3) 県負担・補助率の考え方

国1/2(森林病虫害等防除事業費補助金)、県1/4、市町村1/4

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	75	業務打ち合わせ（東京）
需用費	18	コピー、消耗品費 等
補助金	1,399	恵那市
合計	1,492	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第4期岐阜県森林づくり基本計画

1 災害に強い循環型の森林づくり

①激甚化する災害に備えた山地防災力の維持・強化

(2) 国・他県の状況

全国で同事業を実施している。

(3) 後年度の財政負担

継続的な実施が必要

(4) 事業主体及びその妥当性

市町村 森林林業基本法（昭和39年7月9日 法律第161号）第2条、第6条、第13条より、地方公共団体は森林病虫害等の駆除及びその蔓延の防止その他必要な施策を講ずる義務を有するため、妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

松くい虫対策対象松林における松くい虫及びカシノナガキクイムシの被害を、今後も継続して減少傾向に保ちたい。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標	達成率
①対策対象森林における被害材積(m ³) 松くい虫		323	300	300		
②対策対象森林における被害材積(m ³) カシノナガキクイムシ		37	300	300		

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> 取組内容と成果を記載してください。 実績なし（市町村からの要望無し）
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> 松くい虫駆除として薬剤の樹幹注入を保護対象松55本(材積109m³)実施された。(恵那市) 松くい虫の被害材積300m³の目標に対し、令和3年度被害材積は323m³であり、カシノナガキクイムシの被害材積50m³の目標に対し、令和3年度被害材積は37m³であった。 <p>指標① 目標：350 実績：360 達成率： ____ %</p>
令和4年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 2	被害材積は年度によって増減を繰り返しており、今後、新たな被害が確認される可能性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	これまでの取組等により、新たな被害の発生は減少傾向にある。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 1	特に保全すべき森林について、被害木の立木くん蒸、伐倒くん蒸等による「駆除」や殺菌剤の樹幹注入等による「予防」を重点的に実施することで、効果的かつ効率的に防除を行っている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 被害材積は年度によって増減を繰り返しており、今後被害材積がさらに増加する可能性は高い。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 今後も、気象条件等の生育環境の変化による被害増加が予測されるため、特に保全すべき森林について、被害木の立木くん蒸、伐倒くん蒸等による「駆除」や殺菌剤の樹幹注入等による「予防」を実施していく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	